

キングス・カレッジ・ロンドン 留学報告書

第 8 号 2018 年 5・6 月

2017-2018 年度グローバル補助金奨学生 中谷菜美



■留学先

キングス・カレッジ・ロンドン

International Child Studies 修士課程

■スポンサークラブ

東京六本木ロータリークラブ

■ホストクラブ

エッジウェア・スタンモア

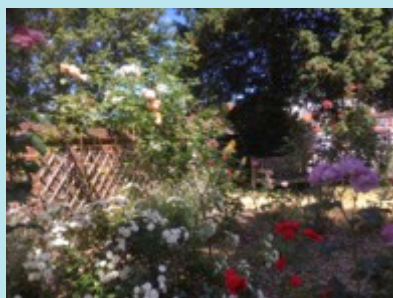
(Edgware and Stanmore) ロータリークラブ

目次

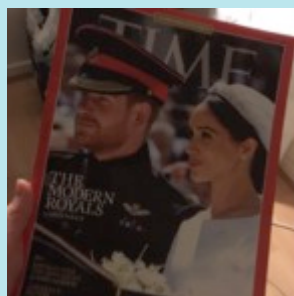
01. 履修内容・学校生活

02. ロータリークラブの方々と との日々

03. 重点分野との関わり



バラが美しい季節になってきました。街角の至る所でバラを見つけると嬉しい気分になります。



ロイヤル・ウェディング。イギリス王室の時代に合わせた変化を象徴する結婚式と TIME で報道。

ロンドンでは、今週珍しく 30 度に届く夏日が続いています。日も長くなり、10 時頃まで明るいので、1 日がとても長く感じます。

6 月中旬に修士論文の中間発表プレゼンテーションも終わり、あとは修士論文に向けて、黙々と論文を進める日々を送っています。修士論文の提出まで残すところ後 2 ヶ月。最後まで、悔いのないよう、ベストを尽くせたらと思っています。

それでは、5、6 月の報告をさせていただきます。

01. 履修内容・学校生活

虐待予防対策のイギリスと日本の比較

先日、目黒区の児童の虐待死事件を受けて、日本でも虐待への対策についての議論が高まっていますが、受講していた子どもの保護の授業のレポートにて、イギリスと日本の虐待の予防政策について比較しました。世界的に見ると、虐待への対応は起こった後の対応（保護者からの分離による保護）から、発生前の予防に重点が移ってきています。虐待の子どもへの発達に及ぼす影響を考えると発生した後に取り返すのが難しいこと、発覚する虐待はほんの一部であり、予防以外にそういった子どもを救えないため、また予防は虐待発生後にかかる費用に対してコスト的にも効率的であることなどが理由です。虐待予防には、例えば乳児世帯の家庭訪問や、親への子育て支援等があります。比較をして印象的だったのは、日本は母子保健は発達している国と言われていますが、科学的に虐待予防に効果があると言われている支援プログラムの導入が少ないことです。例えばアメリカで作られた NFP(Nurse-Family Partnership、看護師と家族のパートナーシップ)プログラムは、若年層妊娠で経済的にも困難がある場合など脆弱な妊婦を対象にした、特別な

支援プログラムですが、イギリスでも政府が中心となり広く普及しています。日本でも虐待予防において望まない妊娠や若年層妊娠へのアプローチが重要となっており、こういった成果が証明されているプログラムをより普及することで予防を進められることができるのではないかと思います。

修士論文の執筆と中間発表プレゼン

修士論文では、発展途上国における子育て支援の虐待予防への役割というテーマで研究を進めています。紛争や災害などの困難な状況に置かれた際にストレスが高まる中で、親へのサポートは子どもが虐待や体罰などを受けるのを防ぎ、子どもの発達を保証するために重要です。実際に南スーダンからの難民を受け入れるウガンダの難民キャンプでも、子育て支援は行われています。また、途上国を中心とする多くの国では、体罰や心理的虐待ともみなされる子育て（怒鳴ったり、子どもの感情の否定）が伝統的に広く行われている状況があります。国際社会が2030年までの目標を定めたSDG（持続可能な開発目標）でも、体罰を含む子どもへの暴力を根絶することが目標の一つとされており、今後の国際的な支援活動において子育て支援を通じた子どもへの暴力防止の活動は重要性を増すのではないかと考えています。このような問題意識から、実際にロンドンで行われている子育て支援プログラムに焦点を当て、子育て支援が多様な文化の中で、虐待防止にどう効果を発揮できるかについて研究を進めています。アフリカやアジア地域出身のお母さん達へのインタビューを行っています。虐待や体罰を子育てプログラムで減らしていくことは、文化の違いを超えて可能であるとのインタビュー結果が出始めており、希望を感じています。今後の活動目標である、国際的な子どもの保護という分野において専門性の一つとなるよう、しっかり深めていきたいと思っています。



中間発表後にクラスメイトと、テムズ川沿いで乾杯！

02. ロータリークラブの方々との日々

ロンドン地区での最後のイベント

ロンドン地区では、地区内のすべての奨学生に対するイベントを、一年を通して開催いただいていたが、その最後のフェアウェルパーティーが、今年奨学生の担当をしてくださっていた、グラハムご夫妻の御自宅で5月6日に開催されました。お二人のご自宅が、クリケットグラウンドの目の前ということで、地区ガバナーのマイケルさんより、クリケットについて教えていただきました。この一年、奨学生同士のネットワークを構築する多くのイベントを開催いただき、本当に感謝しています。



ロンドン地区の奨学生の皆さんと。



クリケットの説明をくださった地区ガバナー

第 2750 地区奨学生の再会！@ロンドン

アメリカに留学している舟越さんがロンドンに立ち寄るとことで、イギリス留学組の樋口さん、松村さん、中谷の4人で、ロンドンを観光しました。この一年間多くの問題意識を持ちインプットをしてきた皆さんとの会話は、政治から児童保護まで幅広く広がり、刺激を与え合える良い仲間に恵まれたことを実感しました。将来それぞれの専門性を生かして何か一緒に行動していけたらという話にもなり、今後も繋がっていけるのが大変楽しみです。



ロンドン塔の前にて記念撮影

ホストクラブの会長バトンタッチ

6月28日に、ホストクラブであるエッジウェア・スタンモアクラブの会長交代記念の夕食会に参加させていただきました。今年の会長は昨年に引き続き、女性のソニアさん。前会長のダニエルさんの功績を称え、そして次の会長のソニアさんの挨拶が行われました。また、私のカウンセラーであるフランさんが、多くの奨学生のカウンセラーを務めてきたこと、2度の会長の経験などのクラブでの活動を表彰されました。



新会長のソニアさん(右)と。



表彰を受けたフランさん(左)



アメリカからの奨学生ジェームス(右)と、ジェームスのカウンセラーのマキシムさん(中央)

03. 重点分野との関わり

セーブ・ザ・チルドレンのロヒンギャ難民の人権擁護キャンペーン

今年の初めから、セーブ・ザ・チルドレンのキャンペーン・ボランティアとして活動しています。ボランティアの研修と、ミャンマーからバングラデシュに追われ避難生活を余儀無くされているロヒンギャの方々の人権を守るキャンペーンの企画づくりが行われました。ミャンマーから追われる過程で、女性や子どもがレイプや性的虐待を受けていることが、セーブザチルドレンの職員から報告されました。キャンペーンは、イギリス政府がミャンマー軍のロヒンギャの方々に対する戦争犯罪を国際的に司法で裁くように促すことを訴えることを目標にしており、私もボランティア仲間と、8月に広報イベントを企画中です。ボランティアを通して、キャンペーンや政府に対する啓発活動をどう行うかという点でも多くを学んでいます。

留学期間も残すところ2ヶ月となりましたが、良い論文がかけるよう最後まで走り抜けたと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



セーブ・ザ・チルドレンの研修にて